



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2027年3月期第2四半期 決算補足資料

2026年10月29日

■ 2027年3月期2Q 決算概要	3
■ 2027年3月期 業績予想	8

2027年3月期2Q実績

- オフィスや文化施設向けの可動間仕切や移動間仕切が好調に推移し4.3%増収
- 原材料費は上昇したが、高付加価値製品の販売増加により前年同期並みの売上総利益率を確保、人材投資など販管費の増加を吸収し3.5%営業増益
- 26年9月末の受注残は10.2%増加、オフィスや文化施設向けを中心に可動間仕切や移動間仕切が増加
- 加賀工場2号棟が9月に竣工、秋から製造設備を設置し、27年5月に操業開始予定

2027年3月期予想

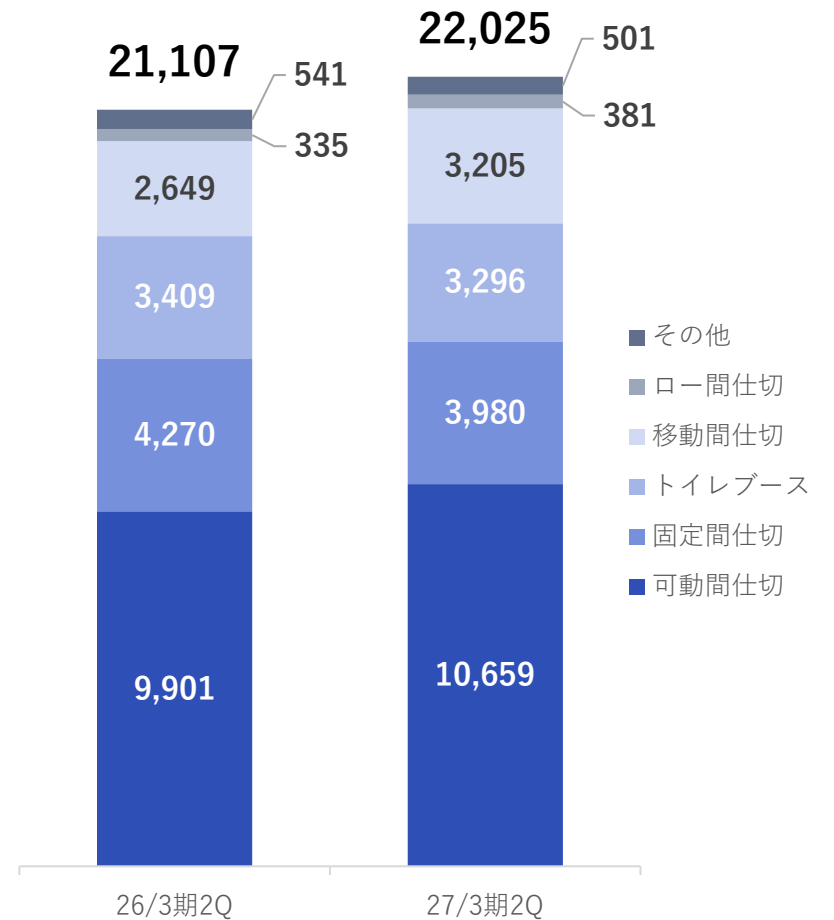
- 期初予想を継続。売上高は4.0%増収予想。26年9月末の受注残も10.2%増加しており、可動間仕切や移動間仕切の好調が続くと予想
- 営業利益は3.9%増益予想。材料費の上昇や人材投資の増加を見込むが、増収効果により増益を予想

株主還元

- 2025年4月に配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%目安に変更しており、27年3月期の配当も前期比5円増配の135円を計画（期初計画継続）

売上高

（百万円）



2027年3月期第2四半期 決算概要説明

2027年3月期2Q 決算概要

決算概要



- オフィスや文化施設向けの可動間仕切や移動間仕切が好調に推移し増収、営業増益。売上・利益ともほぼ期初計画通り
- 原材料費は上昇したが、高付加価値製品の販売増加により前年同期並みの売上総利益率を確保、人材投資など販管費の増加を吸収し営業増益

単位：百万円	2025年3月期2Q		2026年3月期2Q		2027年3月期2Q期初予想 (26年4月時点)		2027年3月期2Q実績		前年同期比 増減率	予想比 増減率
売 上 高	20,117	100%	21,107	100%	21,900	100%	22,025	100%	4.3%	0.6%
売 上 総 利 益	6,820	33.9%	7,437	35.2%	—	—	7,727	35.1%	3.9%	—
営 業 利 益	971	4.8%	1,192	5.6%	1,210	5.5%	1,233	5.6%	3.5%	2.0%
経 常 利 益	1,048	5.2%	1,220	5.8%	1,230	5.6%	1,266	5.7%	3.8%	3.0%
当 期 純 利 益	738	3.7%	817	3.9%	860	3.9%	813	3.7%	△0.5%	△5.4%
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	39円56銭*		46円51銭		48円89銭		46円10銭		△0.9%	△5.7%
1 株 当 た り 配 当 金	30円00銭*		65円00銭		65円00銭		65円00銭		—	—

* 2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

品目別売上高

■ 可動間仕切や移動間仕切はオフィスや文化施設向け等が好調。一方で、固定間仕切やトイレブースはオフィスや工場向け等が減少

■ 受注残は10.2%の増加。オフィスや文化施設向け中心に可動間仕切や移動間仕切が増加、固定間仕切は学校や福祉施設向け等で減少

単位：百万円	2026年3月期2Q	2027年3月期2Q					
	売上高	売上高	前年同期比 増減率	受注高	前年同期比 増減率	受注残高	前年同期比 増減率
合 計	21,107	22,025	4.3%	26,858	6.6%	25,319	10.2%
└ 可 動 間 仕 切	9,901	10,659	7.7%	12,767	17.6%	7,867	26.2%
└ 固 定 間 仕 切	4,270	3,980	△6.8%	4,435	△16.3%	5,721	△13.9%
└ トイレブース	3,409	3,296	△3.3%	4,606	△3.4%	5,093	6.0%
└ 移 動 間 仕 切	2,649	3,205	21.0%	3,916	20.0%	5,917	23.8%
└ ロ ー 間 仕 切	335	381	13.9%	391	2.2%	111	△16.9%
└ そ の 他	541	501	△7.4%	740	20.8%	608	62.5%

貸借対照表

■ 新工場建設に向けた投資により有形固定資産が増加、一方で支払いにより現預金が減少。季節性により3月末比で売上債権は減少
ROE向上に向けて、増配等により純資産の増加を抑制したが、自己資本比率は81.9%と引き続き高い財務安全性を維持

単位：百万円	2025年3月期末	2026年3月期末	2027年3月期2Q末	前期末差
流動資産	31,322	27,189	23,711	△3,478
現預金	16,714	12,245	10,750	△1,495
売上債権・契約資産	13,231	13,370	11,143	△2,227
棚卸資産	1,117	1,278	1,514	236
固定資産	15,433	21,414	24,272	2,858
有形固定資産	12,260	18,142	20,241	2,099
無形固定資産	415	431	512	81
投資その他の資産	2,757	2,840	3,517	677
総資産	46,756	48,603	47,983	△620
負債	8,965	9,367	8,680	△687
買掛金	2,323	2,423	2,260	△163
有利子負債	0	0	0	0
純資産	37,790	39,236	39,302	66
負債純資産合計	46,756	48,603	47,983	△620

キャッシュ・フロー計算書



■ 利益計上や売上債権の減少等により営業CF*は2,855百万円、一方で新工場建設等の投資により投資CFは△2,708百万円

■ 設備投資に伴う資金需要と配当金の支払等により、期末現預金は前年同期比3,904百万円減少し、9,125百万円へ

単位：百万円	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	2027年3月期2Q	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,677	2,576	2,855	279
税引前当期純利益	1,100	1,220	1,265	45
減価償却費	564	586	546	△40
売上債権の増減額（△は増加）	2,388	2,079	2,227	148
棚卸資産の増減額（△は増加）	△90	△219	△235	△16
仕入債務の増減額（△は減少）	△392	△247	△163	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,156	△2,563	△2,708	△145
有形固定資産の取得による支出	△639	△3,475	△2,548	927
定期預金の預入・払戻による支出入	△500	1,000	500	△500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△669	△632	△1,165	△533
配当金の支払額	△661	△625	△1,157	△532
現金及び現金同等物の期末残高	13,373	13,029	9,125	△3,904
フリーキャッシュ・フロー	521	13	147	134

*CF：キャッシュ・フロー

2027年3月期第2四半期 決算概要説明

2027年3月期 業績予想

業績予想



- 期初予想を継続。売上高は4.0%増収予想。26年9月末の受注残も10.2%増加しており、可動間仕切や移動間仕切の好調が続くと予想
- 営業利益は3.9%増益予想。材料費の上昇や人材投資の増加を見込むが、増収効果により増益を予想
- 2025年4月に配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%目安に変更しており、27年3月期の配当も前期比5円増配の135円を計画

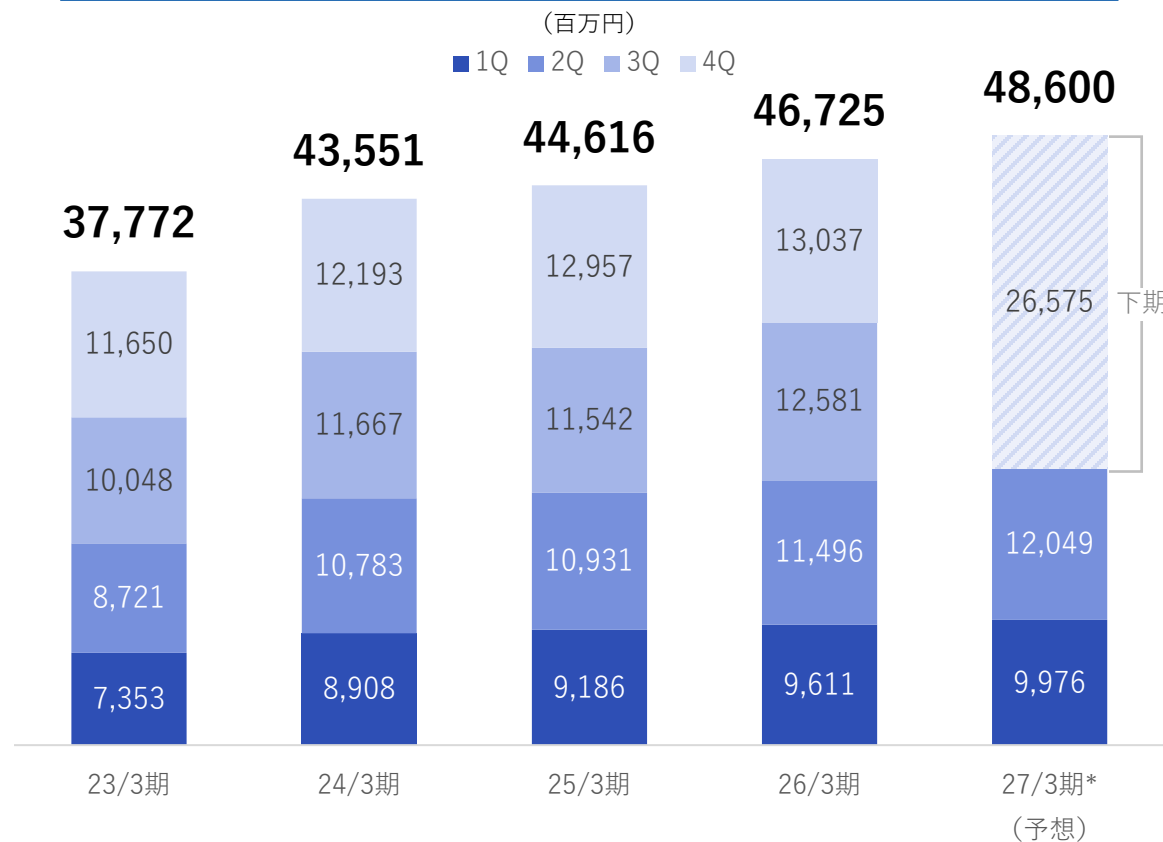
単位：百万円			2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期 通期予想		前期比 増減率
売	上	高	44,616	100.0%	46,725	100.0%	48,600	100.0%	4.0%
営	業	利 益	3,635	8.1%	4,099	8.8%	4,260	8.8%	3.9%
経	常	利 益	3,756	8.4%	4,150	8.9%	4,310	8.9%	3.8%
当	期	純 利 益	2,650	5.9%	3,048	6.5%	3,050	6.3%	0.0%
1 当	株 期	当 純 利 益	145円64銭*		173円32銭		173円39銭		0.0%
1 配	株	当 当 金	65円00銭*		130円00銭		135円00銭		3.8%

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

四半期業績推移

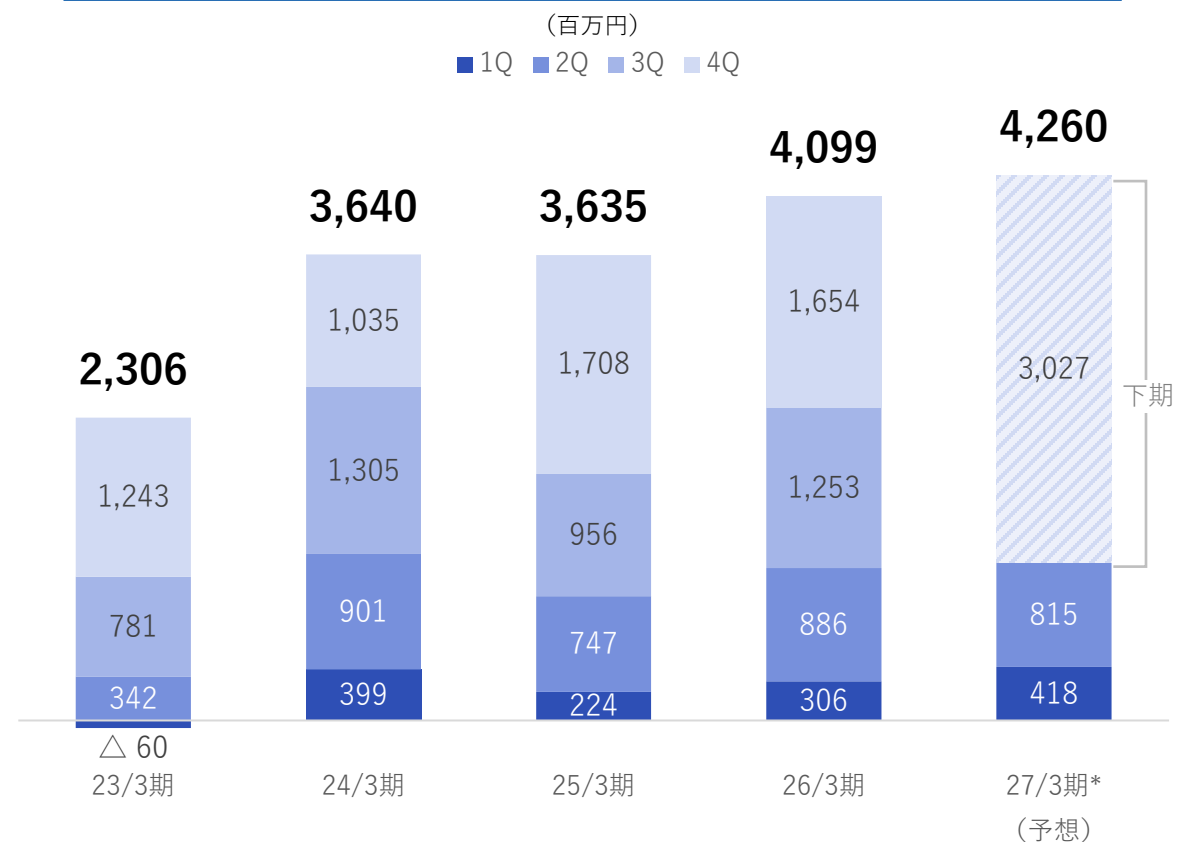
- 2027年3月期7-9月はオフィスや文化施設向けが引き続き増収、ホテルなど宿泊施設向けも回復し、売上高は前年同期比4.8%増収
- 原材料価格は上昇したものの、製品ミックスの改善等により売上総利益は前年同期比2.9%増益、一方で販管費の増加により営業減益

四半期売上高



* 27/3期通期は当社業績予想値

四半期営業利益

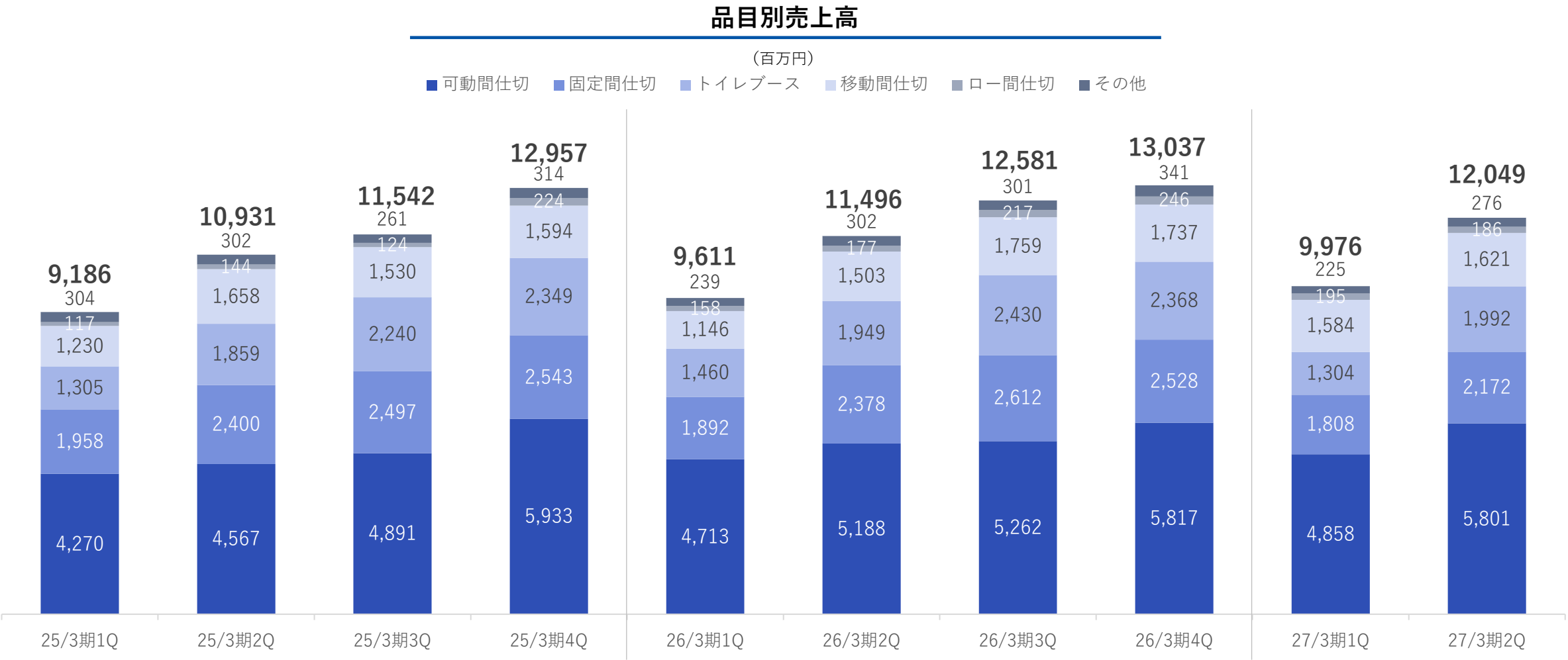


* 27/3期通期は当社業績予想値

四半期品目別売上高推移



■ 2027年3月期7-9月は前年同期比4.8%増収、可動間仕切はオフィス向けが引き続き好調、移動間仕切もオフィスや文化施設向けが堅調、一方で、固定間仕切は工場や福祉施設向けが減少

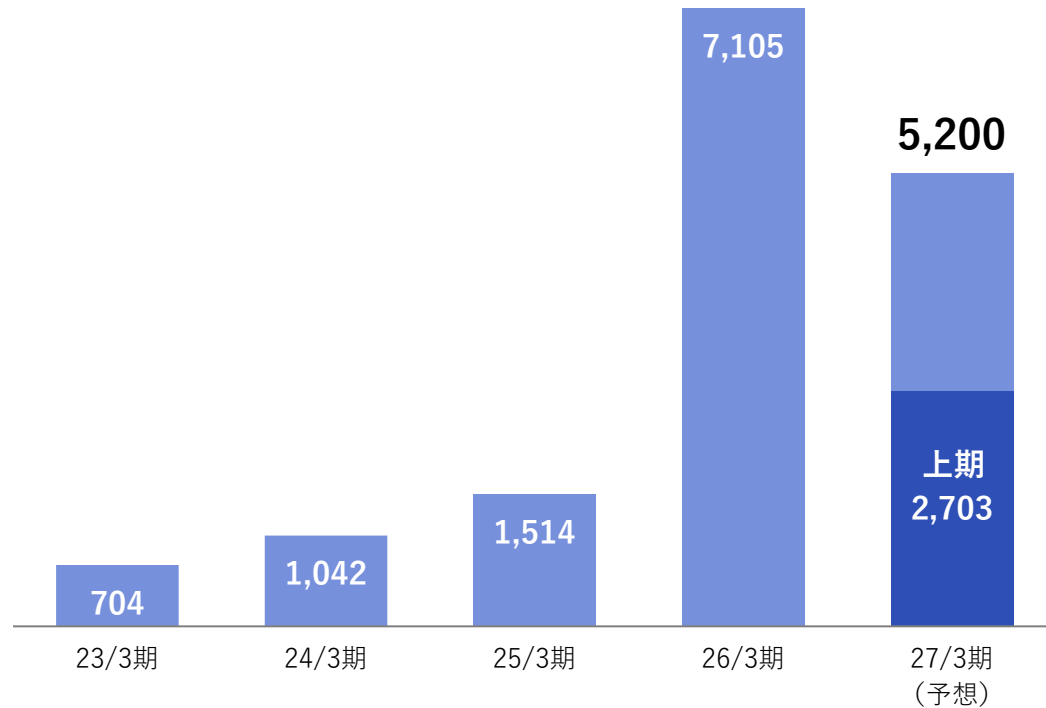


設備投資、減価償却費

- 2027年3月期上期は27億円の設備投資を実施。加賀工場2号棟関連が19億円、大阪や名古屋の物流倉庫の移転や改修、設備の維持更新等
- 27年3月期通期は52億円の設備投資を計画、加賀工場2号棟関連39億円や維持更新投資等

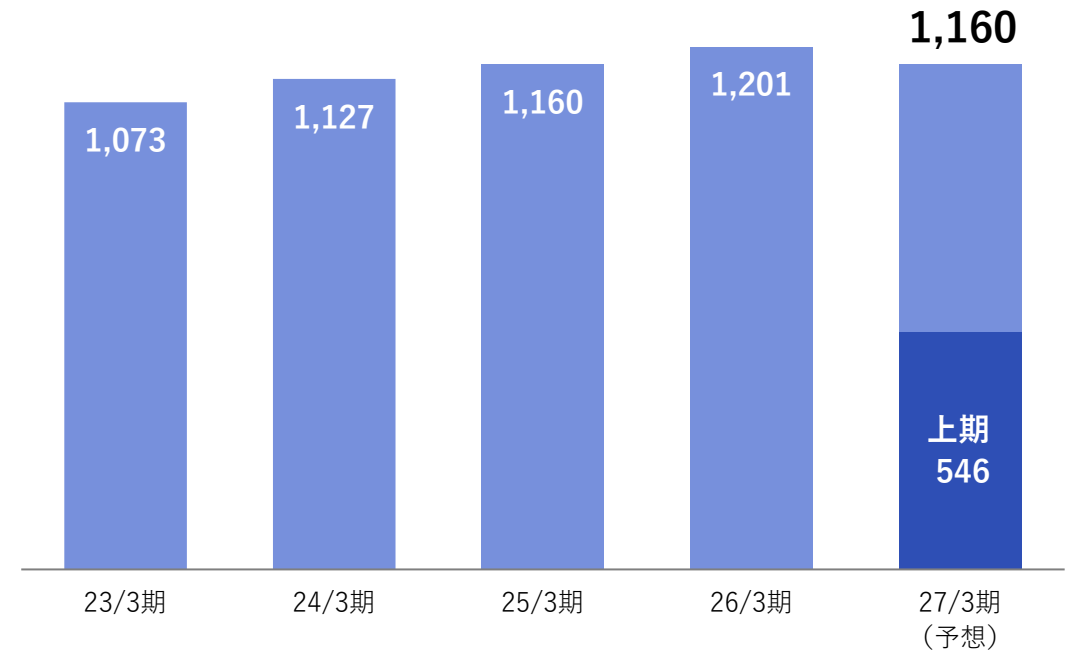
設備投資

(百万円)



減価償却費

(百万円)



加賀工場2号棟が竣工

- 加賀工場2号棟（新棟）が竣工、9月4日に竣工式を実施。2026年秋から製造設備を設置し、2027年5月に操業開始予定
- 第三工場の可動間仕切の一部の生産ラインを移管、オフィス向けなどで需要が大きく伸びている可動間仕切の生産能力を1.5倍に増強

狙い：中期経営計画「NEXT VISION 2028」を具現化

① 既存間仕切の成長：大規模案件の対応とシェア拡大

生産能力の向上により安定供給を実現

製品バリエーションを拡充し、シェア拡大を図る

② 新規製品の創出：次世代製品を生む研究拠点を新設

新工場内に「研究開発棟」を新設し、新たなモノづくりを推進

試作場等にお客様を招き、高いレベルのオーダーメイドを実現

③ 生産物流オペレーションの高度化：IoT等で効率化

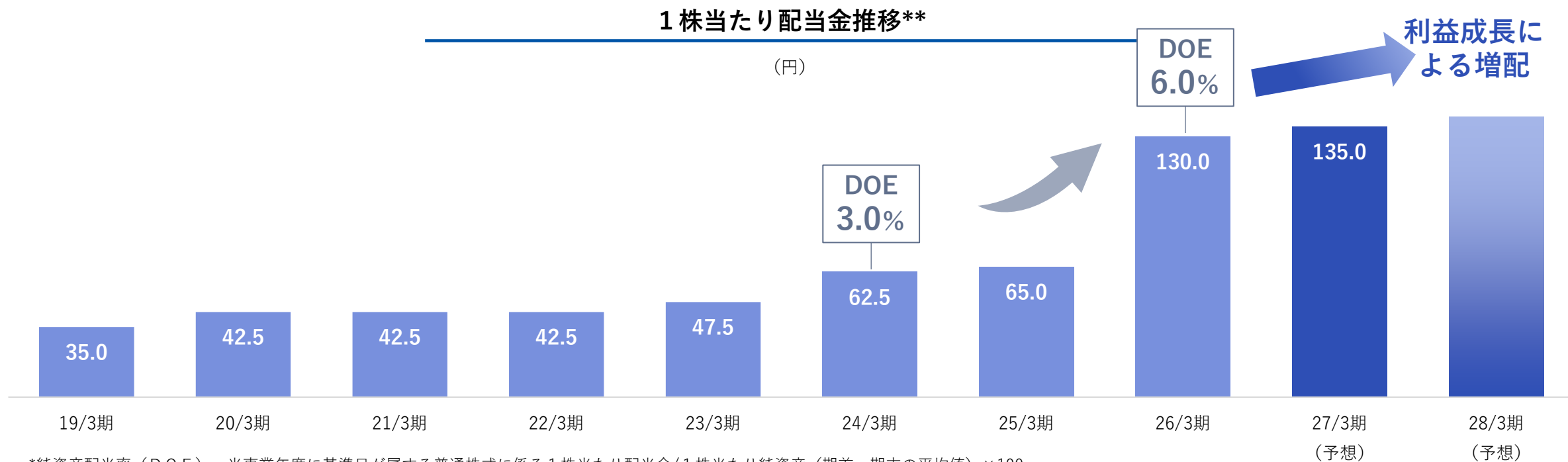
IoTやAI技術を駆使した生産管理システムの最適化の実現

広大なストックヤードを確保し、製造から出荷までの工程を効率化



- 2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率（DOE）6%を目安とした配当へ引き上げ
- 上記方針に基づき、2027年3月期も前期比5円増配の135円を予想（期初予想継続）

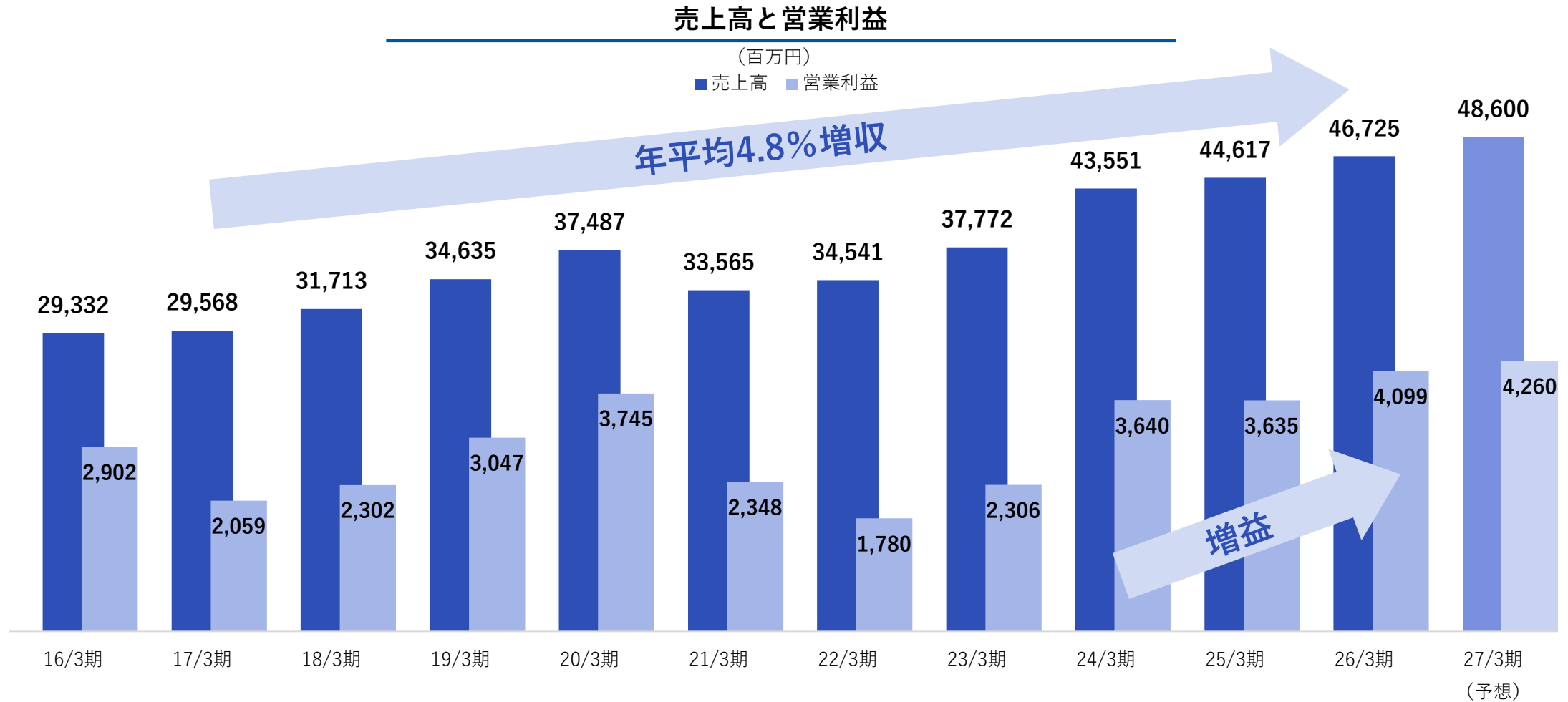
純資産配当率*（DOE）6%を目安とした配当を実施
持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す



*純資産配当率（DOE）＝当事業年度に基準日が属する普通株式に係る1株当たり配当金/1株当たり純資産（期首・期末の平均値）×100

**2024年10月1日付で1：2の株式分割を実施。過年度の配当金は株式分割後の株数での配当金に遡及修正

- オフィス向け中心に間仕切需要拡大に伴い、売上高は2026年3月期まで過去10年間で年平均4.8%増収
- 2026年3月期は売上高・営業利益とも過去最高。2027年3月期も過去最高売上高・利益の更新を目指す





小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社
社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。